



書評

[評者]

齋藤 信也

岡山大学大学院教授・
保健学

臨床・研究で活用できる！

QOL評価マニュアル

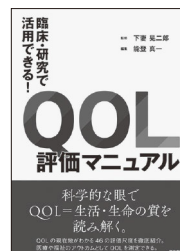
下妻 晃二郎 監修

能登 真一 編

●B5 頁352 2023年11月

定価：4,950円(本体4,500円+税10%)

[ISBN978-4-260-05279-5] 医学書院刊



医療関係者でQOLという言葉を知らない人は皆無ではないかと思う。私は外科医であるが、外科ではこれまで根治性を重視し、QOLを軽視しがちであった歴史がある。そこに乳房温存や、機能温存手術が導入される中で、それがもたらすQOLの改善を測ってみたいという素朴な気持ちが生じてくる。ところがいざQOLの測定となると、使用可能な日本語版尺度がなかったり、あったとしても、不自然な日本語で、それをわかりやすく変更しようとする「そんなことをしてはいけない!」と言われたり、さらには「勝手に使おうと著作権者から訴えられるよ」などと脅かされると、少し気が萎えてくる。加えて、信頼性とか妥当性とか、測定特性とか計量心理学の用語が頻出すると「うーん」となってしまうがちである。

そこに現れた待望の一冊が本書『臨床・研究で活用できる! QOL評価マニュアル』である。編者の能登真一先生は、理論と実践の両面にわたり、斯界を牽引してきたリーダーでもあるが、同書を「臨床・研究で『活用』できる『マニュアル』」と明確に性格

付けている。背景となる理論は過不足なくコンパクトにまとめられているうえに、「尺度別」に具体的な記載がなされている点がユニークである。「マニュアル」としてその尺度の特徴、開発経緯、日本語版の開発、著作権の使用に当たっての注意点、質問票そのものの、スコアの算出方法と解釈、測定特性、エビデンスが、一覧できる利便性の大きさは類書にはないものである。しかもわが国でその尺度を開発(翻訳)した当事者がその項目を執筆しているということで、著作権のことも具体的でわかりやすく記載されている。これ一冊あれば、QOL測定のハードルはとても低くなる。

一方本書は、実践面に徹したマニュアルであり、QOLの初学者には向かない本であると誤解される方もいるかもしれないが、QOLの基礎知識、評価尺度と測定特性についての項目はコンパクトではあるものの、非常によくまとまっており、この分野への入門書としても秀逸な出来栄となっている。多くの臨床家・研究者の皆さまに手に取っていただきたい一書である。